

公立大学法人静岡文化芸術大学 第2期中期計画 用語解説

(五十音順)

用語	解説
アウトソーシング	外注、外製(がいせい)ともいい、企業や行政の業務のうち専門的なものについて、それをより得意とする外部の企業等に委託すること。
アクティブラーニング	教員が学生に一方向的に知識を教授する講義型ではなく、学生が主体的に問題を発見し、解を見出していく能動的な学習方法の総称。アクティブラーニングを取り入れた授業は、学生参加型授業、共同学習、探求学習、能動的学習、経験型学習、問題解決学習などの名称でよばれ、実際の授業は、グループワーク、ディスカッション、リフレクション(自己の活動内容を振り返って評価すること)、ディベートなどにより進められる。
アドミッション・ポリシー	大学の入学者受け入れ方針。自校の特色や教育理念などに基づき、どのような学生像を求めるかをまとめたもの。
e ラーニング	e ラーニングの“e”は、electronic(電子的な)の意味であり、機器としてはパーソナルコンピュータ、CD-ROM、DVD-ROM、デジタルテレビ、携帯端末(携帯電話、PDA(携帯情報端末)等)などがある。これらの機器と併せて、インターネット、ビデオ配信等の情報通信を活用した学習形態をいう。
インターンシップ	学生が在学中に、企業等において自らの専攻や将来希望する職業に関連した就業体験を行うこと。
OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング)	OJT(On-the-Job Training)とは、職場で実務をさせることで行う従業員のトレーニングのこと。職場の上司や先輩が、部下や後輩に対し具体的な仕事を与えて、その仕事を通して、仕事に必要な知識・技術・技能・態度などを意図的・計画的・継続的に指導し、修得させることによって全体的な業務処理能力や力量を育成する活動。
ガバナンス	統治、支配。一般的には組織における意思決定、合意形成に関わるシステムのこと。大学のガバナンスとは、理事長、学長のリーダーシップの確立や学内組織の運営・連携体制の整備等のこと。
カリキュラムポリシー	教育の実施に関する基本的な方針
CAP制(キャップ制)	<p>単位の過剰登録を防ぐため、1年間あるいは1学期間に履修登録できる単位の上限を設ける制度。</p> <p>日本の大学制度は単位制度を基本としているが、大学設置基準上1単位は、教員が教室等で授業を行う時間に加え、学生が予習や復習など教室外において学習する時間の合計で、標準45時間の学修を要する教育内容をもって構成されている。また、これを基礎とし、授業期間は1学年間におよそ年30週、1学年間で約30単位を修得することが標準とされ、したがって大学の卒業要件は4年間にわたって124単位を修得することを基本として制度設計されている。</p> <p>しかし、学生が過剰な単位登録をして、3年で安易に124近くの単位を修得し、結果として45時間相当に満たない学習量で単位が認定されているという現象が生じたことから、大学設置基準で「大学は、学生が各年次にわたって適切に授業科目を履修するため、卒業の要件として学生が修得すべき単位数について、学生が1年間又は1学期に履修科目として登録することができる単位数の上限を定めるように努めなければならない」と規定された。</p>

用語	解説
クォータ学期制	<p>学校の1年間を四つの授業実施期間に分ける制度。学期の区切りや休暇の配分は学校によりさまざまであるが、4～5月を1学期、6～7月を2学期、10～11月を3学期、12～2月を4学期とし、2学期と3学期の間に夏季休暇、4学期中の12月末から1月初めに冬季休暇、4学期の後に学年末休暇（春休み）を挟むのが一般的である。</p> <p>日本の大学の多くは4月入学で、そのほとんどが2学期制を導入している。そのため、欧米の大学の8割が実施している秋入学とは学期の区切りにずれがあり、留学希望者や研究者の受け入れがむずかしく、日本の学生が欧米の大学の夏休み（6～8月）に行われるサマースクールに参加することなどにも不都合な点があるなど、課題がある。</p>
GPA制 (グレード・ポイント・アベレージ)	<p>アメリカにおいて一般的に行われている学生の成績評価方法の一種。一般的な取扱いの例は次のとおりである。</p> <p>①学生の評価方法として、授業科目ごとの成績評価を5段階(A、B、C、D、F)で評価し、それぞれに対して4・3・2・1・0のグレード・ポイントを付与し、この単位当たり平均(GPA)を出す。</p> <p>②単位修得はDでも可能であるが、卒業のためには通算のGPAが2.0以上であることが必要とされる。</p> <p>③3セメスター(1年半)連続してGPAが2.0未満の学生に対しては、退学勧告がなされる。(但し、これは突然退学勧告がなされるわけではなく、学部長等から学習指導・生活指導等を行い、それでも学力不振が続いた場合に退学勧告となる。)</p> <p>なお、このような取扱いは、1セメスター(半年)に最低12単位、最高18単位の標準的な履修を課した上で成績評価し、行われるのが一般的である。</p>
高等学校基礎学力テスト(仮称)	<p>高校で学習する履修科目の「知識・技能」が習得できているかが重視され、学習到達度の把握を目的にしており、生徒の学習意欲の喚起や学習の改善に利用される。基礎学力の把握が主な目的だが、大学入試に用いることも想定されている。</p>
サマースクール制度	<p>アメリカをはじめとする多くの大学では、9月から12月を秋学期、1月から5月を春学期とし、6月から8月の2か月間が夏休みとなる。この学期のシステムに習い、6月から8月の間にサマースクールが開催される。高校生・大学生にとっては本学期に取得できなかった単位の再履修、もしくは来季の科目を先取りして、次の学期の負担を減らす、という役割を果たしている。また、多くの大学はその大学の学生ではない学生や留学生に来てもらえるプログラムを開講している。</p>
新学習指導要領	<p>新しい学習指導要領は、生徒に知・徳・体のバランスのとれた「生きる力」を育むことを目指すものであり、「確かな学力」として、基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決させるために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うことを重視するものとなっている。</p>
SD(スタッフ・ディベロップメント)	<p>教員に加え事務職員や技術職員など、教職員全員を対象とした、管理運営や教育研究支援までを含めた資質向上のための組織的な取組</p>
SA(ステューデント・アシスタント)	<p>TAとは区別して、大学院生でなく、学士課程の学生を教育の補助業務に携わらせること。</p>

用語	解説
3R(リデュース、リユース、リサイクル)	3Rとは、Reduce（リデュース：減らす）Reuse（リユース：繰り返し使う）Recycle（リサイクル：再資源化する）の3つの語の頭文字をとった言葉で環境配慮に関するキーワード。1リデュース（ごみの発生抑制）、2リユース（再使用）、3リサイクル（ごみの再生利用）の優先順位で廃棄物の削減に努めるという考え方を示す。
大学入学希望者学力評価テスト(仮称)	現在の大学入試センター試験の後継とされるテスト。現在の入試でも行われている「教科型」に加えて、「合教科・科目型」「総合型」の問題を組み合わせで出題され、評価も1点刻みではなく段階別評価を想定。このテストでは、「思考力・判断力・表現力」が評価の中心に変わるが、具体的なことはまだ明らかではない。
多文化共生	複数の他者の民族、他者の文化の相互承認と共存が可能になっている社会の状態のこと。
チューター制	大学において、大学院生等が学士課程の学生への学習助言を行う制度。
定住外国人	一般的に、日本社会に長期間、生活の本拠を持ちながら日本国籍を有しない者という意味。外国人旅行者や1年～3年程度のスパンで日本で働く人（たとえば企業の駐在員や技能実習生）は除く。
TA(ティーチング・アシスタント)	優秀な大学院生に対し、教育的配慮の下に、学部学生等に対する助言や実験、実習、演習等の教育補助業務を行わせ、大学院生への教育トレーニングの機会提供を図るとともに、これに対する手当ての支給により、大学院生の処遇の改善の一助とすることを目的としたもの。
ディプロマポリシー	卒業認定・学位授与に関する基本的な方針
TOEIC(トイック)	Test of English for International Communicationの略称で、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する世界共通のテストであり、世界約60ヶ国で実施されている。
パブリシティ	マスメディアに流される、製品やサービスに関する報道
ピアサポーター	同じ悩みや症状などの問題を抱えている当事者同士が、互いの経験・体験を基に語り合い、問題の解明(回復)に向けて協同的にサポートを行う相互支援の取り組みをピアサポートと言い、ピアサポートを行う者を言う。
FD(ファカルティ・ディベロップメント)	教員が授業内容・方法を改善し、向上させるための組織的な取組の総称。具体的な例としては、教員相互の授業参観の実施、授業方法についての研究会の開催、新任教員のための研修会の開催などを挙げることができる。
ファシリティ・マネジメント	効率的な活動のために行う建築物の設備・人員組織などについての総合的な管理。土地、建物、構築物、設備等を最適な状態（コスト最小、効果最大）で保有し、運営し、維持するための総合的な管理手法のこと。

用語	解説
副専攻 (主専攻)	主専攻は主として学ぶ領域（自分の所属する学部・学科）、副専攻はサブで学ぶ領域（学部・学科とは別に用意された独自カリキュラム）のこと。たとえば文学部に入学したとして、主専攻は文化学だが、副専攻として海外コミュニケーションを取るなど。大学によってはこの主専攻・副専攻というものが無いところもある。
ふじのくに地域・ 大学コンソーシアム	高等教育機関相互の連携を深め、また、行政、産業界、非営利活動法人などと広範なネットワークを形成し、県内高等教育機関の教育力・研究力の一層の向上を図るとともに、それぞれの主体が一体となって、地域社会の発展に寄与していくことを目的とし、本県の大学間連携組織である「大学ネットワーク静岡」を発展的に改組し平成 26 年 3 月 27 日に設立。
ホームカミングデー	ホームカミングデーは、仕事や研究・研修の拠り所として、または最新情報や人材情報の交換拠点として母校を活用してもらうよう、大学の現在を伝える機会、同窓生、先輩・後輩と旧交を温め教職員と交流する機会をいう。
ポータル	元々ポータルとは港（port）から派生した言葉で門や入口を表し、転じてサイバービジネスの世界では、ユーザーがインターネットを利用する際の入り口、または拠点として必ず利用する場所（ウェブ）をいう。また、社内ポータルは、主に社内のさまざまなアプリケーションへの入り口となる Web サイトのこと。
ポートフォリオ	就職や教育分野で「自分を表現するための資料一切合切」をポートフォリオと呼ぶ。英語では書類を運ぶ平らなケースのことで、作品を平カバンに詰めしておくことから、自分の能力を周囲に伝えるための自己作品集を指す。
メンター制度	一般的にメンター制度とは、会社や配属部署における上司とは別に指導・相談役となる先輩社員が新入社員をサポートする制度のこと。
リカレント教育	経済協力開発機構(OECD)が 1970 年代に提唱した、生涯学習の制度的形態。回帰教育、循環教育などとも訳される。社会に出てからも学校または教育・訓練機関に回帰する(戻ってくる)ことが可能な教育システム・体系のこと。広義には社会人が人生の途上でさまざまな形で学ぶことを意味するが、狭義には高等教育機関など整った教育機関で教育を受けることを意味する。
ユニバーサル・デザイン	高齢であることや障害の有無などにかかわらず、すべての人が快適に利用できるように製品や建造物、生活空間などをデザインすること。
4 技能評価	英語の能力を、「聞く」「読む」「話す」「書く」の 4 技能を総合的にバランスよく評価すること。
Wi Fi (ワイファイ)	無線でネットワークに接続する技術（無線 LAN の規格のひとつ）

※ 文部科学省資料、本学資料のほか、インターネットから作成